

市場概況

移動通信市場

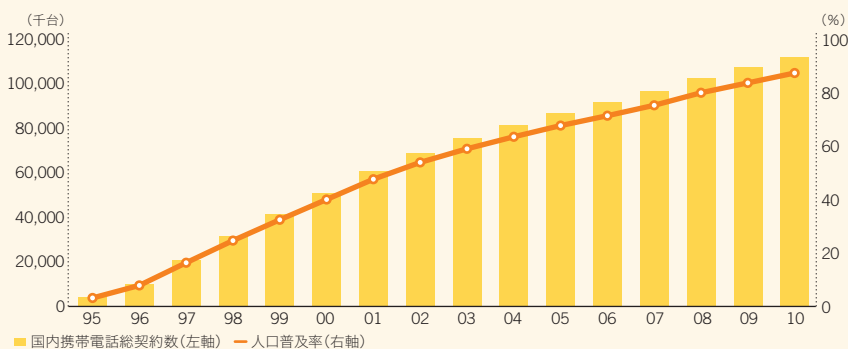
携帯電話市場の成熟化とビジネスモデルの転換

日本の携帯電話の累計契約数は、2007年12月末に1億台を突破し、2010年3月末時点では1億1,218万台、人口普及率は87.8%と高い水準に達しています。これまで成長を牽引してきたコンシューマ市場における一般的なハンドセット型端末の増加ペースは鈍化傾向となり、一方でスマートフォン、フォトフレーム型端末やデータカードといったモジュール型端末、および中・小規模を中心とした法人市場における成長が期待されています。

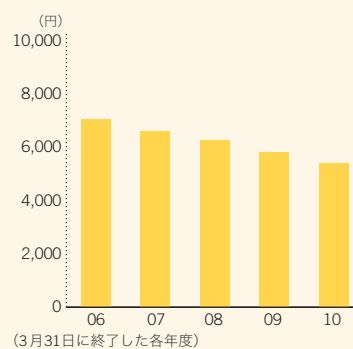
また、公正競争ルールの整備に向けた総務省の「新競争促進プ

ログラム2010」の下で開催されたモバイルビジネス研究会の報告を受け、2007年度には通信料と端末価格を分離した新たな料金プランが導入されました。この料金プランに基づく新販売スキームが日本における携帯電話販売の中心となることで、従来のビジネスモデルが大きく変化しました。通信料・端末価格分離プランにおける通信料金は、分離された端末販売奨励金相当額が月々の基本料金から割り引かれるよう設定されているため、同プラン契約者の増加に伴い、音声ARPUは低下していくことになります。

国内携帯電話総契約数／人口普及率



au総合ARPU



データARPUの向上と非トラフィック領域での価値創造

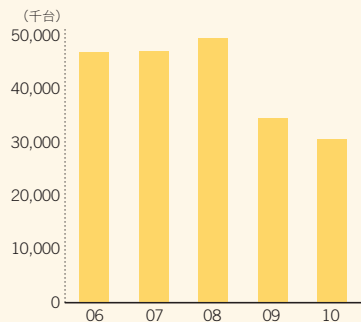
新たな料金プランの浸透に伴って音声ARPUが低下していく中で、いかにデータARPUを伸ばすかが携帯電話事業者各社の課題となっています。

データ通信利用によるパケット料金は、各社とも定額制を採用しており、データ通信利用の少ないお客様に定額制へ加入いただくことでデータ利用の裾野拡大によるデータARPUの向上を図っているほか、多様なコンテンツの提供により、従来データARPUが低いお客様によるコンテンツ利用を増やすことで、定額制の上限額への到達率を高めるための取り組みを進めています。さら

に、魅力的なスマートフォンの投入により、データ利用額の高いお客様の獲得に力を注いでいます。また、データカード、フォトフレームなどの通信モジュール型端末といった新たな市場が急速に存在感を増しています。

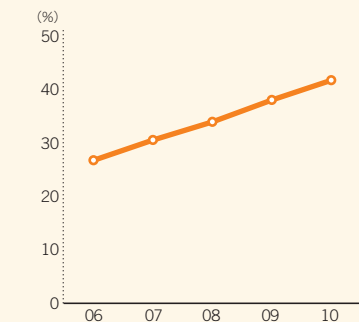
携帯端末をプラットフォームとした通信トラフィックに依存しないビジネスの構築も、さまざまな分野で模索されています。携帯電話を窓口とした金融事業への参入や、携帯端末向けマルチメディア放送への準備もその一つです。

国内携帯電話端末販売数



出所：(社)電子情報技術産業協会

auデータARPU比率



▶▶ 市場環境を受けた当社の移動通信事業戦略は36～41ページでご説明します。

固定通信市場

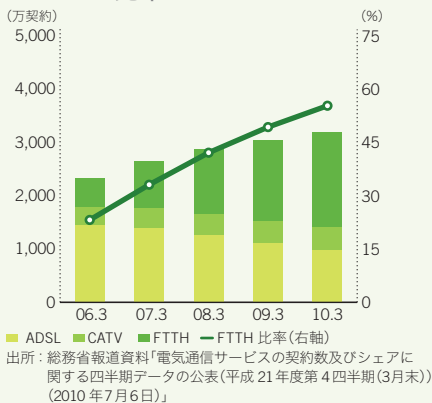
直収化、ブロードバンド化の進展

日本の固定通信市場は、現在、「直収化」「IP化」「ブロードバンド化」への転換期にあり、収入・収益の確保という観点においては、電話が中心であった時代の中継系ビジネスからアクセス回線ビジネスへの転換が着実に進行しています。

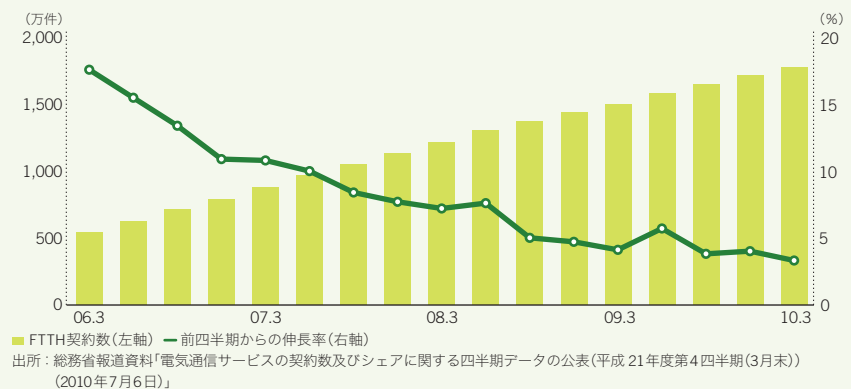
ブロードバンドサービス市場は成長を続けています。FTTH (Fiber to the Home)、ADSL、CATV等を合わせた契約数が、2008年12月末で初めて3,000万契約を突破し、2010年3月末には3,204万契約に達しています。また、価格面での競争力や、インターネット

接続に電話と映像サービスを組み合わせた「トリプルプレイ」による商品力の強化を背景にADSLからFTTHへの移行が進み、2008年6月にはFTTH契約数がADSLの契約数を上回りました。ただし、動画配信サイトや大容量のデータダウンロードなどを利用されないお客様の中には、ADSLで十分満足されるお客様もいるため、FTTHサービスの契約数の伸び率は鈍化しており、今後は新たな普及促進策が期待されています。

国内ブロードバンドサービス普及数／うちFTTH比率



国内FTTHサービス契約数の伸長率



IP化の進展

固定電話サービス市場*においては、携帯電話の普及の影響もあり、2010年3月末で前年同期比2.0%減の6,617万契約と、引き続き減少傾向を示しています。

このうち、加入電話とISDNの契約数の合計は前年同期比8.4%減の4,334万契約と減少傾向が続く一方、FTTHやCATVをアクセス回線に使ったIP電話は増加傾向にあり、前年同期比12.9%増の2,283万契約と大幅に増加しています。

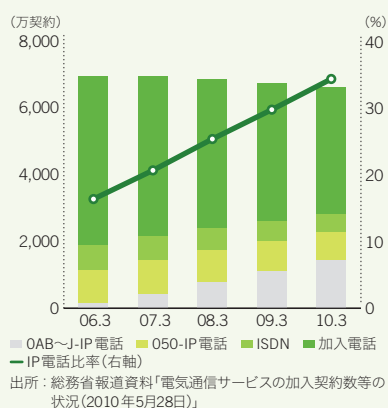
当社では、アクセス回線にFTTHやCATVを利用した「auひかり電話サービス」や「ケーブルプラス電話」などを積極的に展開して

おり、IP電話サービスにおけるシェアは11.6%となっています。

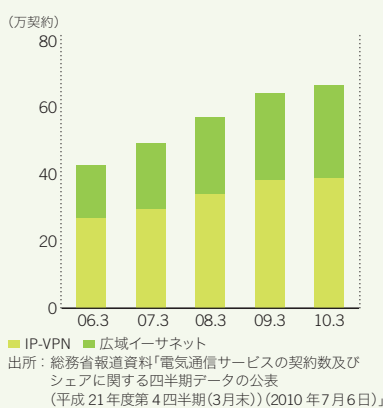
また、法人向け市場においては企業間通信などの大容量化に対応し、企業内通信網で利用されるサービスとして、帯域保証型の専用サービスから、IP-VPNサービスや廉価な広域イーサネットサービスへと移行が進んでおり、VPNサービスは長期的な観点で今後も成長が期待されています。

また、お客様が自ら設備を所有する形態から、キャリア提供のサービスを月額ベースで利用するクラウド型サービスへの移行が一部見られました。*加入電話、ISDN、IP電話を合わせた固定電話全体

IP電話契約数／IP電話比率



IP-VPN、広域イーサネット契約数



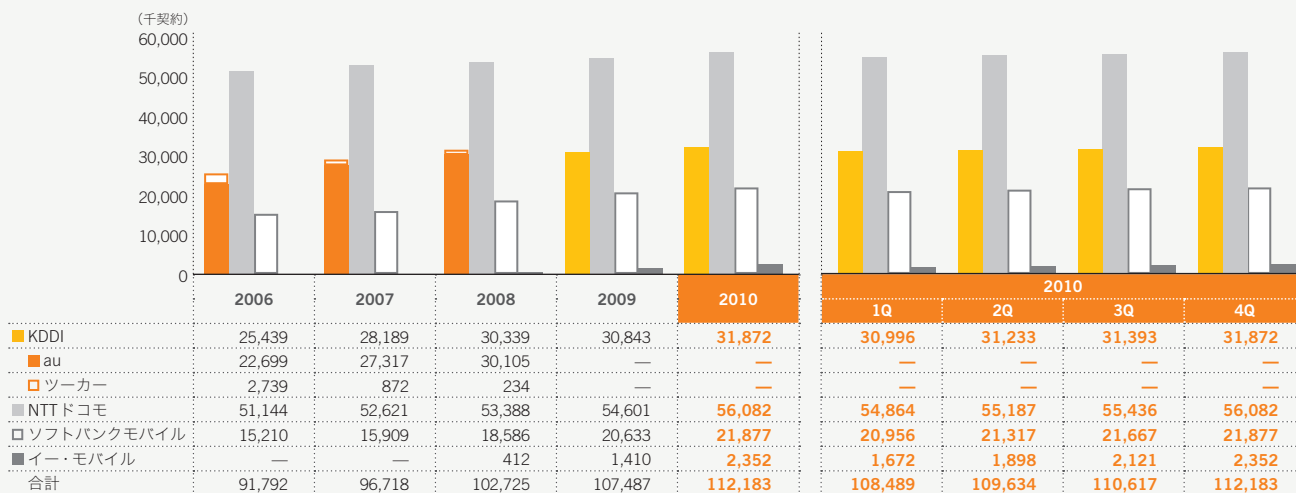
▶▶ 市場環境を受けた当社の固定通信用事業戦略は43~45ページでご説明します。

●市場概況

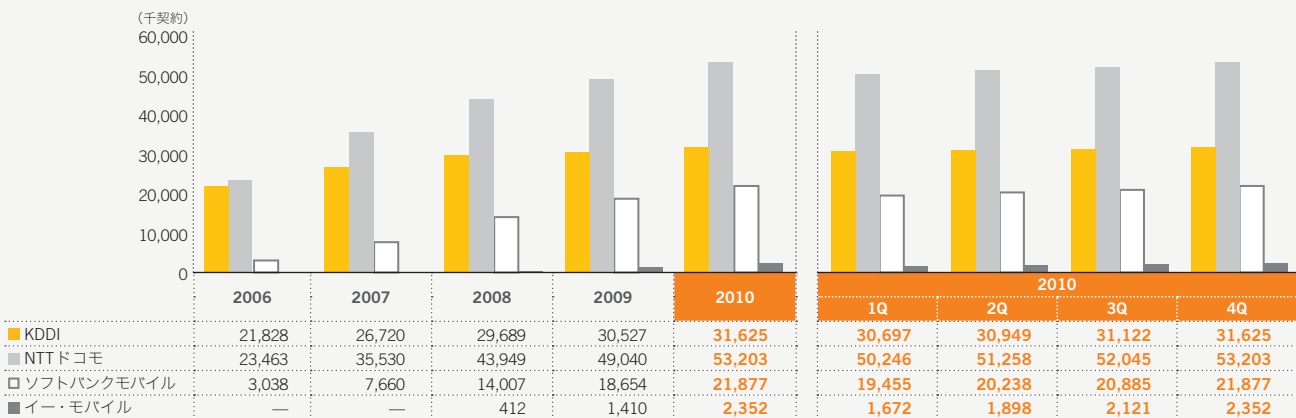
移動通信市場データ

3月31日に終了した各年度

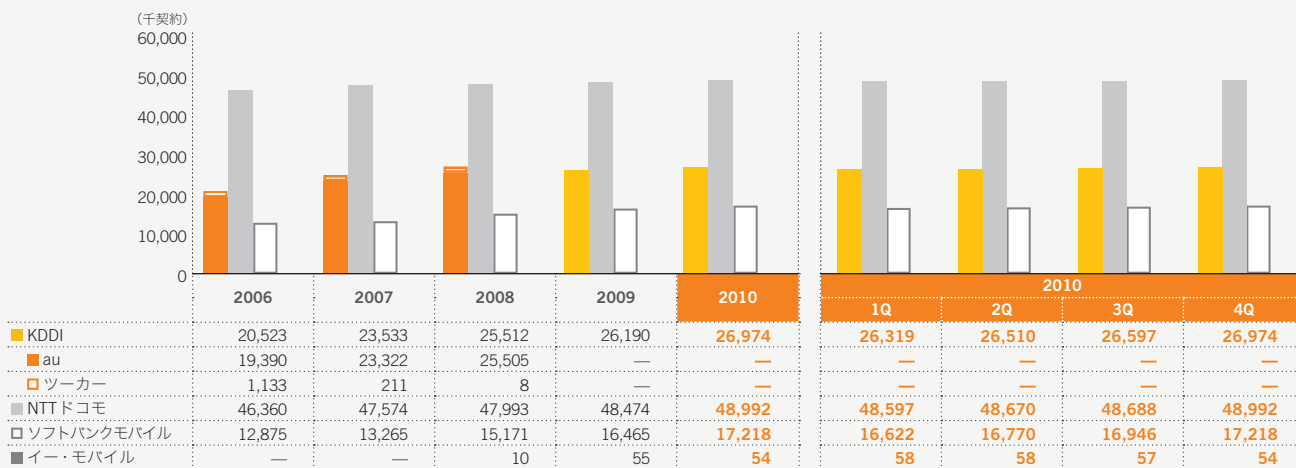
累計契約数



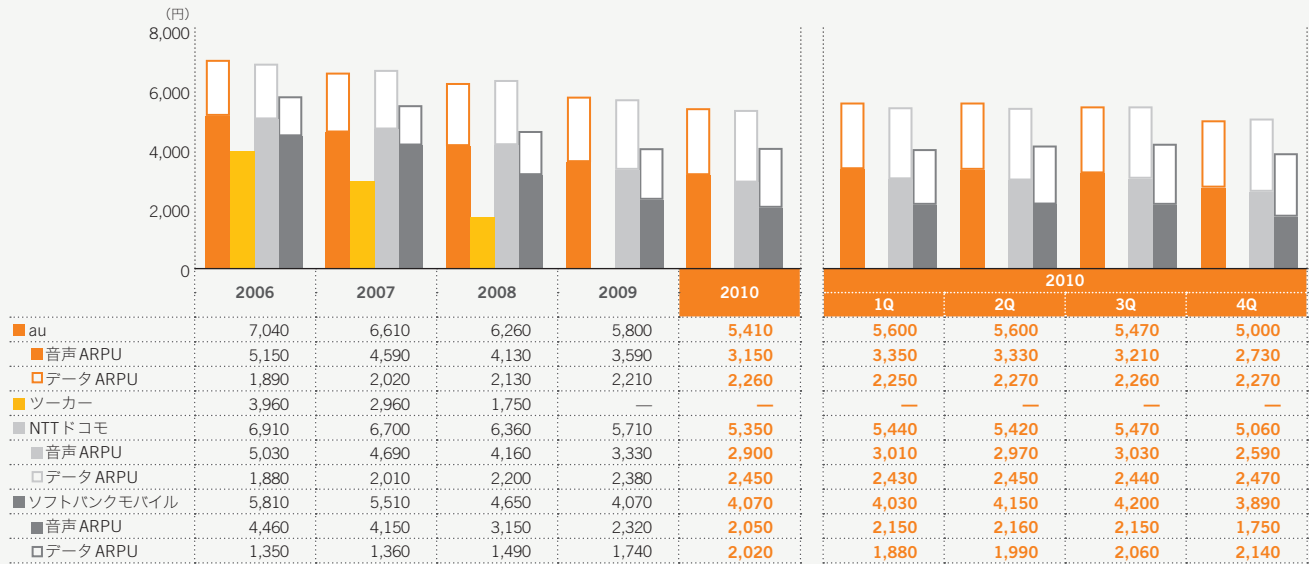
3G契約状況



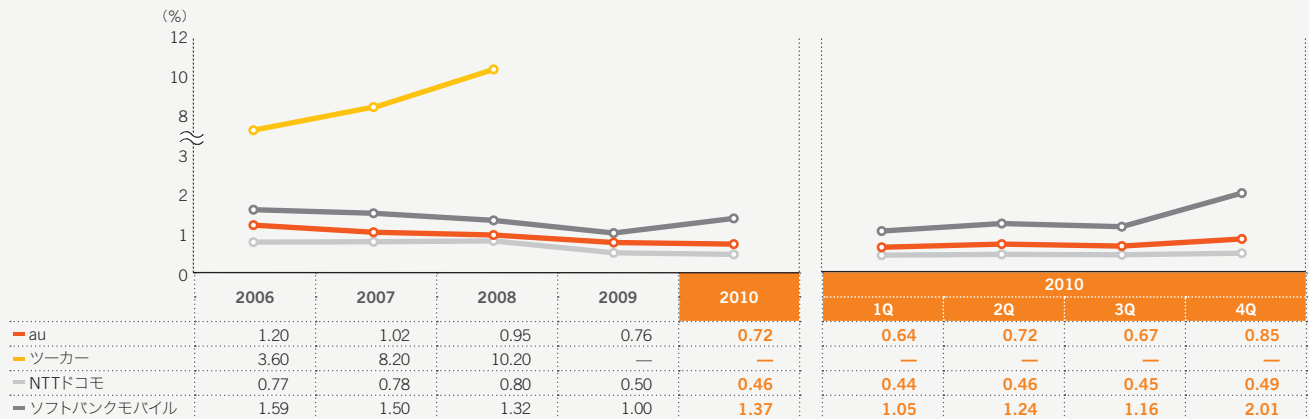
モバイル・インターネット 接続の契約推移



ARPU (Average Revenue Per Unit / 1契約当たりの月間平均収入)



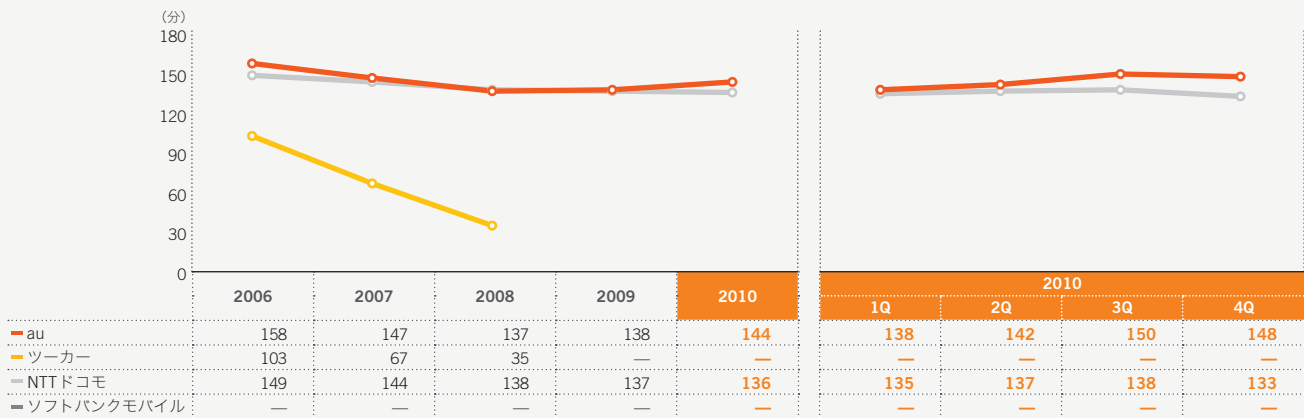
解約率



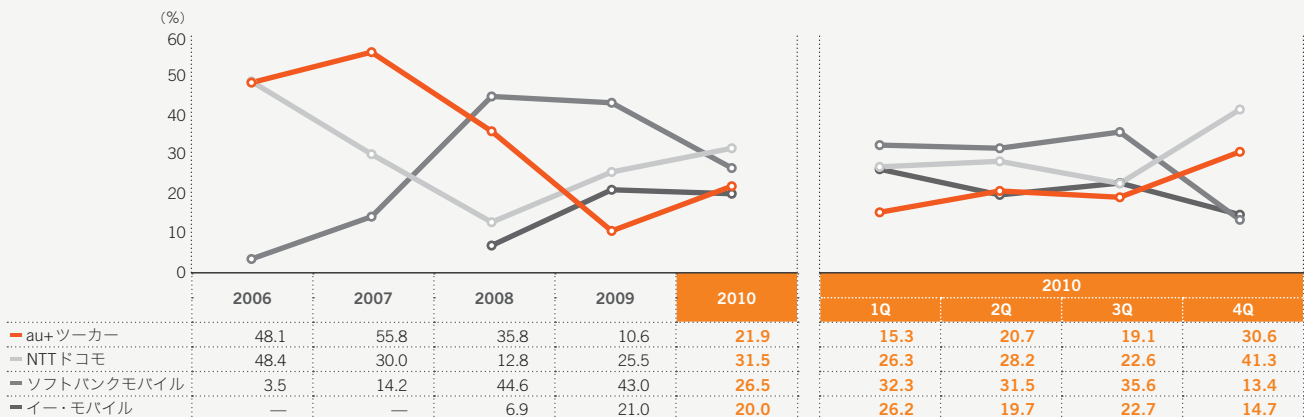
●市場概況

移動通信市場データ

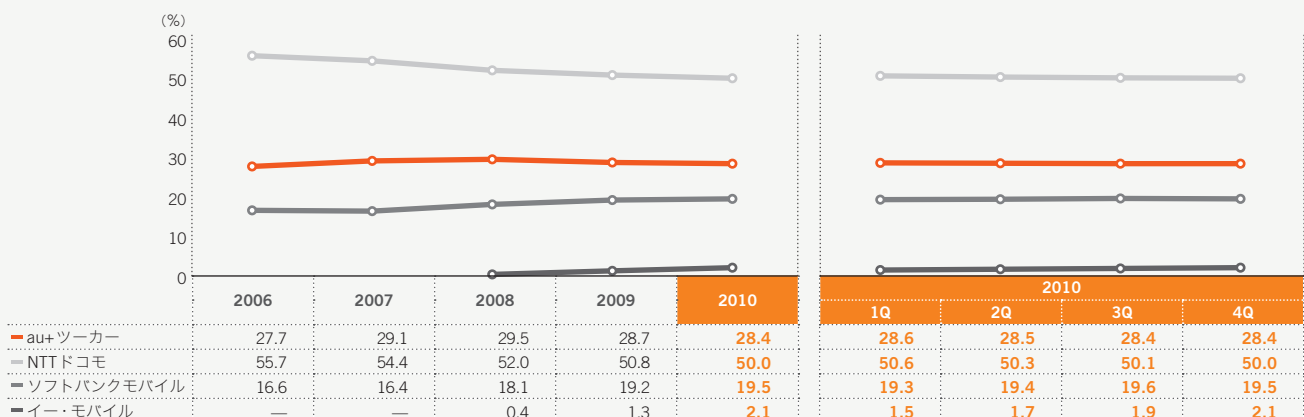
MOU (Minutes Of Use / 1契約当たりの月間平均通話時間)



純増シェア



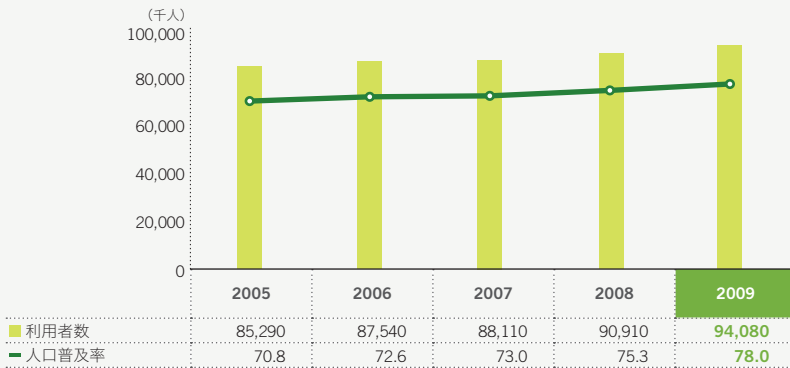
契約数シェア



固定通信市場データ

3月31日に終了した各年度

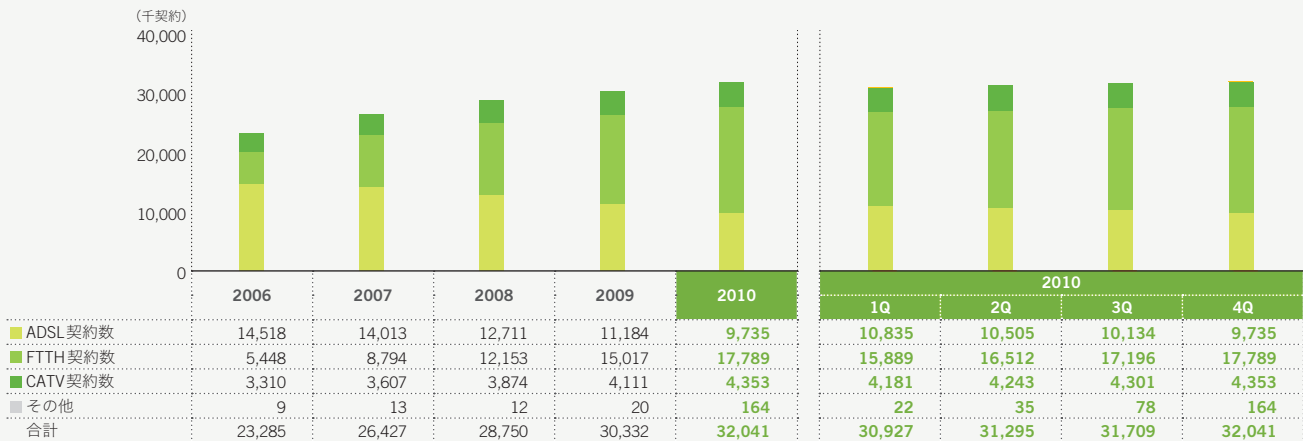
インターネット普及率



注：12月31日に終了した各年度

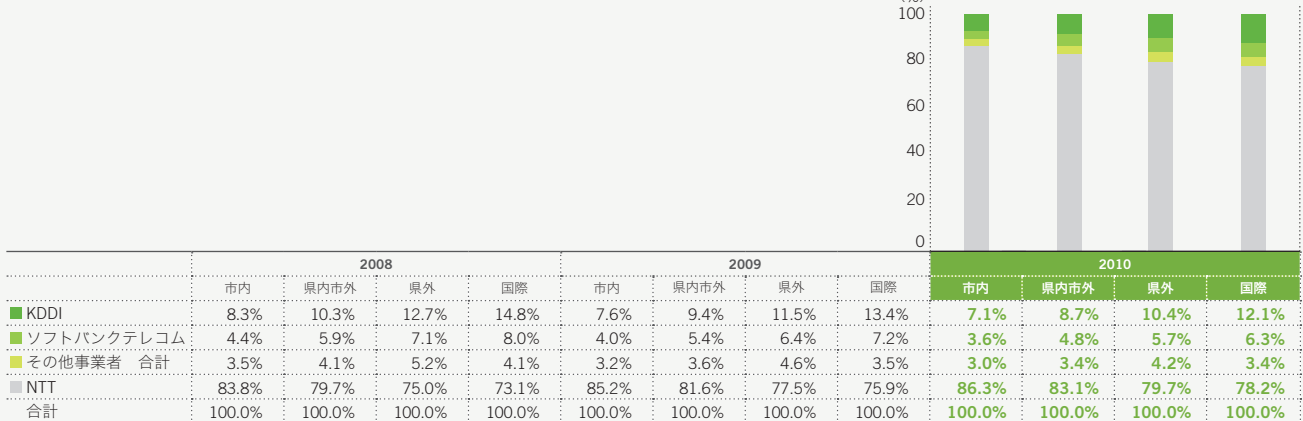
出所：総務省

ブロードバンド普及状況の推移



出所：総務省

事業者別マイラインシェア



出所：マイライン事業者協議会